

平成 20 年 7 月 1 日
日本原子力研究開発機構
敦 賀 本 部

国際協カリエゾンオフィスの開設について (お知らせ)

福井県が平成 17 年 3 月に策定した「エネルギー研究開発拠点化計画」を着実かつ円滑に推進するため、平成 19 年 11 月に開催された「エネルギー研究開発拠点化推進会議」において、平成 20 年度を中心とした各関係機関の施策を盛り込んだものとして「エネルギー研究開発拠点化計画 推進方針<平成 20 年度>」が取りまとめられ、原子力機構としても積極的に取り組んでいるところです。

その中の「人材の育成・交流」において、原子力機構の「国際原子力情報・研修センター」では、海外からの研修生を受け入れるなど、国際貢献を行うとともに、研究・教育、産業分野の指導者、技術者の養成を行うこととしています。

本日、この推進方針の中の「海外研究者の受入れ機能（募集、通訳、研究支援など）の強化」のためのオフィスとして「国際協カリエゾンオフィス」を「国際原子力情報・研修センター研究棟 2 階」に開設いたしました。

このたび開設した「国際協カリエゾンオフィス」は、原子力機構敦賀本部の経営企画部、高速増殖炉研究開発センター、次世代原子力システム研究開発部門、国際原子力情報・研修センターの共同利用室として活用するものです。

「国際協カリエゾンオフィス」では、経営企画部国際協力 Gr 員が駐在して「もんじゅ」の性能試験等に参画する外国人研究者に対して「もんじゅ」の近況に関する情報提供や軽微な通訳作業を含む研究支援を行うほか、外国人研究者と受入れ担当部署との調整作業を行うなど、より効率的に研究者のサポートを行ないます。

今後とも、フランス原子力庁(CEA)、米国の国立研究所等の欧米の研究者にとどまらず、アジア各国の研究者の受入れを促進し、「もんじゅ」及び「ふげん」を国際原子力研究開発の中核拠点とすることを目指し、関係各所との調整を行っています。

なお、本日、新たにフランス原子力庁(CEA)から研究者 2 名を迎えました。

以上

